

## 第2学年 組 道徳学習指導案

### 1 主題名 かけがえのない命（低3－（2）生命尊重）

資料名 「大きくなって かえっておいで」（学研）

### 2 主題設定の理由

- 本主題は、生命をかけがえのないものとして尊重し大切にすることを育てることをねらいとしている。ここでいう生命とは、人間の生命だけでなく、この世に存在する生きとし生けるものすべての生命をさす。

生命を大切なものだというのは、たいていの子どもたちは、そうだ、その通りだ、と知っている。しかし、本当に心から「生きているという実感」をもつ経験は、そう多くない。でも普段の何気ないことが、意識して見ると実は生きている証だと気付くことがある。例えば、心臓の音をきいたり、食べ物を食べたいと思っていることに気付いたり、自分が大きくなっていることに気付いたり、その時あらためて「生きているんだな」「命なんだな」と、生命をかけがえのないものとして感じるのではないだろうか。

人間だけでなく日頃接している身近な動植物に対しても、生命体が大きく変化している様子や自ら動いている様子などを見ると「これも命なんだな」とはっとさせられることがある。しかし、これは意識して見ないとなかなか気付かないものである。

この学習を通して、小さくてもたくましく生きている生き物の命の重みを知り、自分と同じようにみんなも命があり、それはすべて尊いものであるということを感じ取ってほしい。そして、授けられた自分の命を大切に生きていこうという気持ちをもってほしいと願う。

- 本学級の子どもたちは、今生活科の学習でミニトマトを育てており、どの子も「大きくなってね」と願いをこめ一生懸命世話をしている。自分が大切に育てたミニトマトがすくすくと大きくなっていく様子を見て、大きな喜びを感じることができている。また、昆虫などに興味がある子どもは、虫をとってきてはかわいがる姿が見られる。

ただ、その接し方は、興味本位で自己中心的な面があることは否定できない。生き物それぞれが命をもっているという実感を感じている子どもは少ないように思う。

普段とは違う視点で小さな生命を見つめることで、今まで気付かなかった生命の尊さを感じさせる機会とさせたい。

- 本主題の指導にあたっては、さけが必死に生きていく姿に共感させ命の力強さや命の不思議に共感させたい。また、自分が生き物を育てた経験と重ね合わせながら自分も命を大切に思う気持ちがあることに気付かせ喜びを感じ取らせる。さらにもうすぐ出産を控えた先生の話とも重ねあわせ、生命とはどれも等しくかけがえのないものであることに気付かせ、自他の生命を大切にすることを子どもを育てたい。

本資料はさけの一生を扱っており、危険ななか川を下る子どものさけや、産卵のために懸命に川を上る親さけは、必死に生きる生き物の姿を映し出している。小さな体だが必死に生きていこうとする命の力強さを、子ども達は感じるができるだろう。まったくえさを食べず体がぼろぼろになりながらも川をさかのぼる親さけの命がけの姿は、子どもにとっては無償の愛の力として映り、自然に気持ちを重ね合わせることができるであろう。その気持ちと連鎖するように、命と引き換えに生まれた赤ちゃんのことも愛しく思い始めるだろう。

そして人間の命と比べたときに、いのちがけで生命がつながっていることなど、共通するものがあるのに気付くのではないかと考える。

導入部分では、サケの溯上の写真とさけの孵化の写真を見せ、率直な感想を言わせる。ここでは生き物をかわいいと思っている子どもとそうでない子どもで感想は別れるのではないかと考える。

展開前段においては、資料「大きくなってかえっておいで」を使用しサケの一生について語っていく。そこでは教師の語りと視覚画像で展開し、児童の興味を集中させるようにしたい。川を下っていくときに出会う危険を想像させたりしながら、必死でさけの子どもが生きている様子を伝えるようにしたり、えさを口にしないことや身がぼろぼろになってしまうことなどを補足説明しながら親さけの懸命な姿をとらえさせるようにし、命がけのさけの姿に共感させることをねらう。

また、孵化の動画を見せながら、自然にサケの赤ちゃんに思いを寄せていけるようにしたい。

サケに対する共感を膨らませたところで、小さな体で旅に出る子どものサケへの思いを表現させ、生きていってほしいという生への願いを感じさせる。

展開後段では、自分たちが生き物の誕生に出会った経験や、大きくなって欲しいと願い育てた経験を思い起こさせ、自分にも命を大切に思う気持ちがあることに気付かせ喜びもたせるようにする。

終末では、実際にメダカのタマゴを見せ、一生懸命育てたメダカの赤ちゃんが生まれる期待と喜びを教師の経験として語る。さらに、「みんなが生まれるときも、一生懸命生んでくれたんだろうね」と、自分の誕生のときに思いを馳せさせる。「どんな思いでみんなを生んでくれたのだろうか」と投げかけ、先日産休に入られた2年生の先生のビデオレターを見て、お腹の中の赤ちゃんに寄せる願いを話していただく。それを通して、自分も、一生懸命深い愛と願いをもって産んでくれたのだということを感じ取らせたい。

人間もそれ以外の生き物も、必死で生き、命をつなぎ、授かった命を懸命に生きようとしているということをメッセージとして伝えていきたい。

### 3 ねらい

- 生命はどれも等しくかけがえのないものであることに気づき、命がけで授けられた生命を大切にしようとする気持ちを育てる。

### 4 本時 平成 年 月 日 ( 曜日) 第5校時 2年 組教室において

### 5 準備

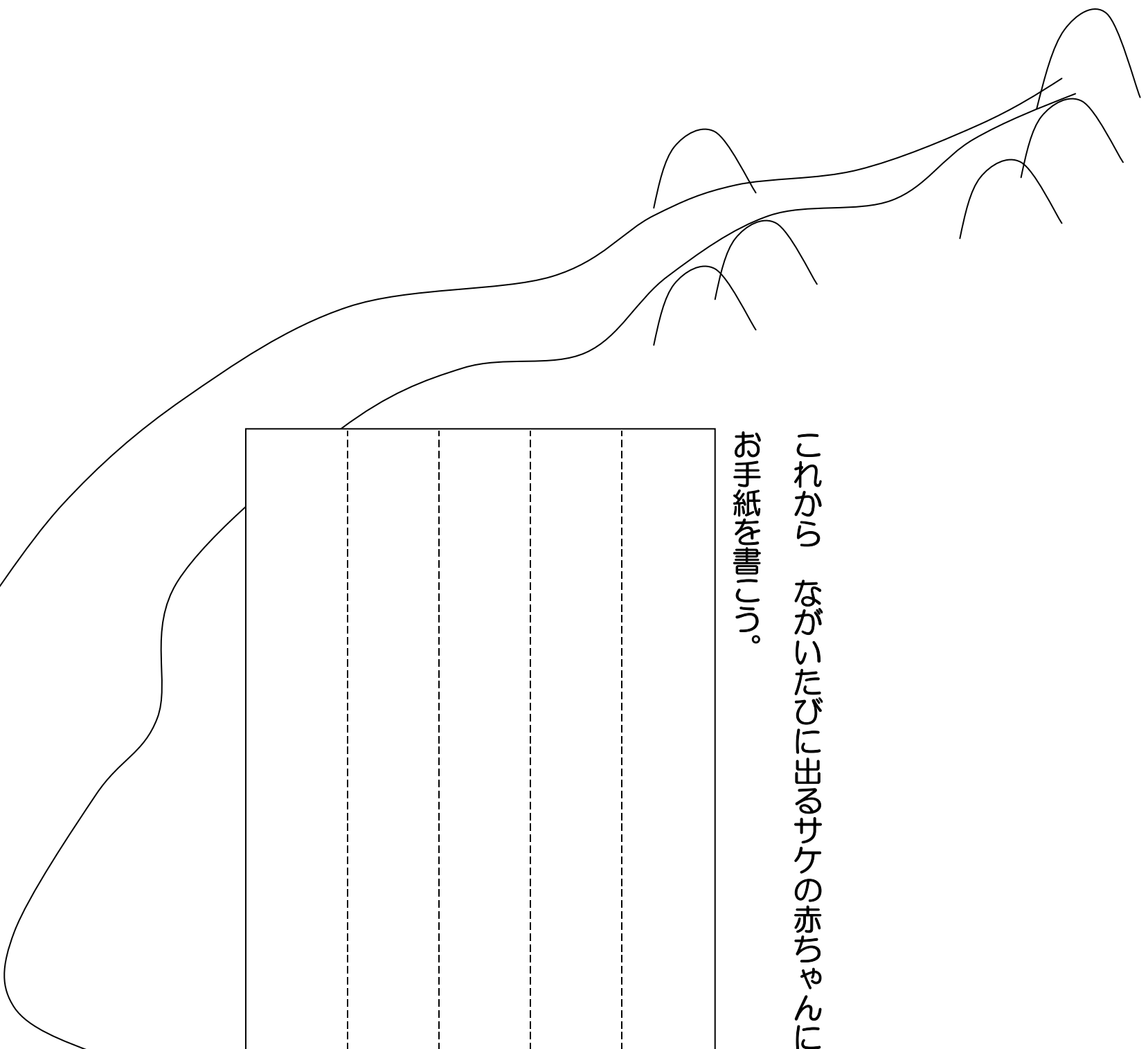
- 子ども：筆記用具
- 教師：学習プリント・プロジェクタ・パソコン・ビデオ・メダカのたまご・デジタル顕微鏡  
板書用挿絵

6 展開

段階	主な学習活動	主な支援	期待する子どもの姿
導入	<p>1. 親サケの写真と、サケの赤ちゃんの写真を見て、感想を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">いのちについて考えよう。</div>	<p>○ 子ども達の生き物への素直な思いを出させるために、いきなり親サケの湖上の写真とサケの赤ちゃんの写真を提示し、感想を聞く。</p>	<p>・素直な感想を表現しようとしている。</p>
展開前段       ／ 展開後段	<p>2. 資料「大きくなってかえっておいで」を視聴し、さけの一生について話し合う。</p> <p>(1) たまごをうむために親さけが懸命に川をさかのぼってきた様子を見て何を思ったか。</p> <p>(2) 赤ちゃんがたまごからかえる様子を見てどう感じたか。</p> <p>(3) 海に向かって出発するさけの子どもにどんなことを呼びかけるか。</p> <p>3. 自分たちの生活の中で、命を大切にしようという気持ちになった経験を話し合う。</p>	<p>○ イメージしやすいように写真と動画を活用し、板書も工夫する。</p> <p>○ 親さけの命がけの姿をとらえさせるために、川をさかのぼるときにえさを食べないこと、岩などで体がぼろぼろになってしまうことなどを補足説明する。</p> <p>○ サケの赤ちゃんに少しでも気持ちを寄せることができるように、少しずつ変わっていくたまごを動画で見せ声をかけさせる。</p> <p>○ 必死に生きていく子どものさけの姿を伝えるために、途中にはたくさんの危険があることにも触れる。</p> <p>○ 命の力強さに対する共感を表現しやすくするために、さけの子どもたちに呼びかける言葉を学習プリントに書かせる。</p> <p>○ 一生懸命お世話をして動植物を育てたことや、ペットの病気や出産などについての経験を思い起こさせることで、命を大切に思う気持ちがあることに気付かせる。</p> <p>○ 小さな命を実感させることができるように、メダカのたまごを見せ、教師の体験を語る。</p>	<p>・懸命に生きるさけの姿に共感している。</p> <p>・小さな命を愛しく思う気持ちを表現しようとしている。</p> <p>・生きていくことを応援する気持ちを表現しようとしている。</p> <p>・自分にも命を大切に思う気持ちがあったことに気づき喜んでいいる。</p>
終末	<p>4. 産休に入られた先生のビデオレターを見る。</p>	<p>○ ねらいに即した話の内容を依頼しておく。</p> <p>○ どんないのちでも、懸命にいのちをつなげていること、与えられたいのちを大切に生きていくことが大切であることを感じとらせる。</p>	<p>・自分たちが大切にされているのと同じように、いろんな生き物も必死に命をつないで生きていることを理解している。</p>

※ 動画資料は、インターネット資料を活用しました。

ながいびにでるサケの赤ちゃんに



これからながいたびに出るサケの赤ちゃんに  
お手紙を書こう。

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--

AND BANK